

谷山光徳寺廃寺

谷山の公民館と八幡宮の間の道を行くと、谷山川に出る。河岸の左側に薬師堂がある。その一帯をコウトクジと呼んでいる。

『筑前国続風土記附録』には…薬師堂 コウトクジ……と出ている。当時には既に「コウトクジ」という地名になっていたのである。

光徳寺の境内がどの位の広さであったかは分からないが、薬師堂を起点として、道と川の両面の延長線に囲まれていたことは明らかである。いつの頃か洪水のために流されて、そのまま廃寺となっただけらしい。

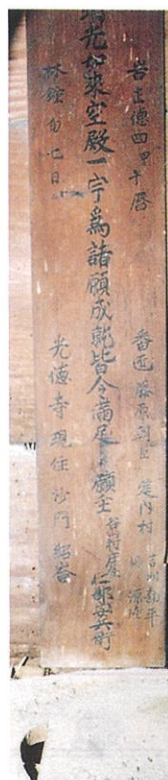


谷山薬師堂

薬師堂厨子の銘はつぎのとおりである。

天下泰平國土安穩 皆正徳四甲午曆 番匠藤原朝臣筵内村 青陽長徳
奉會彫南無薬師瑠璃光如来空殿一字為諸願成就皆令満足 谷山村庄屋仁部安兵衛 源隆
日月清明村中豊饒 林鐘旬七日 光徳寺現住沙門 紹審

(註) 「皆」は「時」の古字。



棟札

薬師堂には薬師如来のほか日光・月光の両菩薩、十二神将 (11体) がいられるが、その厨子に棟札があり、銘に

正徳四年甲午曆

光徳寺現住沙門 紹審

などとあるから、正徳4年(1714)までは光徳寺が、此処に存在していたことを証している。

『筑前国続風土記附録』の頃には既に地名になっていることから、また土地の言い伝えでも洪水で流されたとなっていることから、正徳から間もない頃廃寺となったと考えられる。

(参考) 筑前では享保6年(1721)7月26日に大雨洪水で61人が死亡している。この頃から飢饉が続き、享保16~17年の大飢饉で農村は死者が、1/4~1/3出る。なお、厨子建造の前に災害に遭ったとすれば、前年の正徳3年9月1日に大暴風雨があり、福岡地方で249人の死者が出ている。



お堂の奥の中央に厨子があり、厨子に棟札がある

光徳寺は相当のお寺であったらしい。慶長7年(1602)の『谷山村検地帳』に……田方16筆 畠方18筆……が出ていて、田方だけで1町歩以上に及んでいる。

十二神将の1体が欠けているが、毎年縁日に川で洗って流したという。残欠ではあるが懸仏も残っている。



薬師如来座像



十二神将のうちの一体



懸 仏

谷山村検地帳

